

所属・資格 教育学科・教授

申請者氏名 北野 秋男

|   |   |  |
|---|---|--|
| 研究課題  |   | わが国の学力テスト体制の歴史的研究  |
| 報<br>告<br>の<br>概<br>要                       | 研究目的<br>および<br>研究概要   | 本研究は、全国の都道府県における戦後の学力テスト体制の歴史的構造を解明することである。現在、日本の学力テストは2007年の「全国学力・学習状況調査」によって実施されているが、日本の学力テストの歴史的構造は一朝一夕によってできたわけではなく、戦後から今日までの歴史的構造の中で生まれたものである。本研究は、こうした日本の学力調査体制の実態と構造を時期区分しつつ、その特色や実態を解明することを目的とする。  |
|   | 研究<br>の<br>結果   | 本年度の研究成果は、日本教育学会第78回大会（自由研究発表）「「学力」と「知能」の相関関係における地方調査の歴史」学習院大学（2019.8.10）で学会報告し、その成果を北野秋男「地方学力調査の歴史－「学力」と「知能」の相関関係－」『研究紀要』日本大学人文科学研究so紀要、第99号、2020年2月29日（83-107頁）として刊行できたことである。<br>本論文は、戦後から今日までの各都道府県における独自の「地方学力調査（テスト）」と「知能検査」に基づく学力と知能の関係性を調査・研究した事例を取り上げ、その目的・意図・方法などを解明することであった。具体的な題材は、学力と知能の関係性が問題とされた昭和20年代～60年代までを研究対象に据えて、各年代において各都道府県教育委員会や県（総合）教育センター（旧教育研究所）によって実施された「地方学力調査」において、「知能検査」がどのように利用されたかを実証的に解明することである。また、わが国で行われた戦後の学力と知能の関係性を問題とした学力調査の意味を歴史的に考察したいと考える。 |
|   | 研究<br>の<br>考<br>察<br>・<br>反<br>省  | 本研究の考察と反省は、戦後のわが国の地方学力調査が実施された際に、どのように知能検査が利用されたのかという歴史的構造を解明することではあったが、完全に各都道府県の実態解明ができたわけではなく、今後の研究課題となった。また、歴史的には学力調査や知能検査自体に対する批判的・懐疑的な意見も絶えず見られ、昭和60年代以降は完全に地方学力調査の際には知能検査は利用されなくなる。本研究は、こうしたわが国の戦後の地方学力調査の歴史を知能検査との関係性という側面から実証的に解明したわけであるが、今後の課題としては、さらなる詳細な全国調査を実施し、より詳細な全国的動向を明らかにしたいと考える。そのためには、未だ未調査となっている各都道府県における教育センターなどを中心とした教育機関における一次史料の発掘が不可欠な作業となる。   |
| 研究発表<br>学会名<br>発表テーマ<br>年月日/場所              | ※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。<br>日本教育行政学会第54回大会（自由研究発表）「各都道府県の「学テ」対応状況に関する全国調査－「学テ」がもたらした功罪の検証－」（埼玉大学）2019.10.12. |  |
| 研究成果物<br>テーマ<br>誌名<br>巻・号<br>発行年月日<br>発行所・者 | 北野秋男「地方学力調査の歴史－「学力」と「知能」の相関関係－」『研究紀要』日本大学人文科学研究so紀要、第99号、2020年2月29日、83-107頁   |  |